



鹿屋市立田崎中学校 田崎中だより

校訓「向学・協力・自律・奉仕」

第2号 令和6年5月1日

発行・文責：校長 竹崎 賢一

令和6年度がスタートして1カ月が経過しました。生徒たちは、もうすっかり新しい生活に慣れ、ペースをつかみつつあるようです。人によっては、うまくスタートできなかったかもしれませんが、ゴールデンウィークで一旦リセット。これから自分がやれること、やらなければならないことをリストアップして、連休明けに備えましょう。備えあれば憂いなし。準備をしておくことだ心に余裕が出ます。余裕があれば落ち着いた思考や行動ができます。落ち着いて行動することができれば成功は目前です。準備が全てです。わたしも翌日着る服やハンカチは準備して寝るようにしています。朝あれこれ悩む必要がなくってお薦めです。

◎ 足るを知る

竹崎賢一

本日は令和6年5月1日。ゴールデンウィークの前半が終了しました。今週の金曜日からは4連休の後半戦が始まります。生徒たちに、安全にそして充実した休みを過ごしてほしいな、そう思います。

4月28日には、エアーメモリアル in かのや2024が開催され、本校吹奏楽部が鹿屋東中とともに演奏活動を行いました。大勢の観客を前に堂々と演奏できており、かねての部活動の成果をよく発揮してくれていたと思います。吹奏楽部に限らず、ゴールデンウィークは練習試合や大会・イベント・発表会などさまざまな部活動関係の取組が計画されます。地区総体前に少しでも経験値を上げたい選手たちにとっては稼ぎ時です。後半戦もさまざまに計画されていると思います。引率や送迎の保護者のみなさまはゆっくりもできず大変でしょうが、頑張る子どもたちの姿が褒美です。ご協力よろしくお願いします。

さて、部活動ということについて少々話をしてみたいと思います。昨年度も第4号で書いた内容と同じですが、大切なことですので再度載せたいと思います。

わたしは、生徒たちに部活動関連の講話をするときには、ほぼほぼ「感謝」という観点で話をします。部活動をする目的は「感謝」することを学ぶ、まずもってこの1点にあるとわたしは考えているからです。部活動ができる、練習ができること、試合や発表会等に出られること、それは決して当たり前のことではなく、たくさんの人の献身があって初めて可能になることなんだということを噛みしめてほしい、そう考えるからです。そんな、たくさんの人たちの献身への感謝の気持ちを試合でコンクールで表現してきなさい、生徒たちにはそう話します。

そのことは、優勝すること、上位大会へ出場することよりもはるかに価値のあることだと。わたしは、部活動は「足るを知る」ということを学ぶ大切な場でもある、と考えています。「足るを知る」とは、中国の思想家「老子」の言葉で、「満足することを知っている人間が本当に豊かな人間である」というような意味です。

自分の好きな競技の部活動がある人もいれば、そうでない人もいます。自分が好きな競技の部活動があること、そのことは、その時点ですでに、そうでない人から見れば、十分に恵まれことなんだと知ることが大切です。

さらに、部活動が成り立つためには、顧問の先生が必要です。顧問の先生は、部活動の免許を持って教員になっているわけではありません。それでも生徒たちのために勤務時間外の自分の時間を使って練習に参加したり、土曜や日曜の週休日に練習試合や大会の引率を行ってくれています。

それぞれの教員が、それぞれの事情を抱えながら、それでも生徒たちのために顧問を行ってくれています。顧問の先生がいてくれるだけで、それだけで、十分すぎるほどに恵まれているんだ、そのことを知ることは、とても大切なことです。顧問の先生がいてくれること、それは当たり前のことではありません。顧問の先生がいてくださるからこそ、自分が活動できるんだ、試合に出ることができるんだ、そういうことです。

各家庭でも、このような話をぜひ子どもさんにしてほしいと思うと同時に、保護者のみなさまも、まず理解すべきであると思います。上述しましたように、顧問の教員は部活動の免許を持って教員になっているわけではありませんし、部活動はオリンピック選手やプロ選手の養成機関ではありません。

レベルの高い専門的な指導を求めるのであるならば、その環境は自分で探すもしくは作るかです。学校の部活動に求めるものではありません。

本校の部活動運営方針には部活動のねらいについて「学校の教育活動の一環であることを念頭におき、健康安全に留意しながら、技能及び技術の向上を図るとともに、自主性、協調性及び社会性を養い、明るく充実した学校生活に役立つものとする。」と謳ってあります。養うべきは自主性、協調性及び社会性です。本校の部活動は、このねらいを今後も維持しながら、生徒たちの健全育成に寄与する活動として行なって参ります。保護者のみなさまには、そのような観点をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。